

彦根中央 リハビリぽすと

令和 2 年 6 月 号

〒522-0054 彦根市西今町 369-1

Tel 0749-22-7005 Fax 21-3981

<http://www.hikone-rehacl.com/>

受付から

コロナと共に初夏から梅雨に

爽やかだった5月の気候も通り過ぎてしまいました。コロナの騒動もそれと一緒に過ぎ去ってしまえばいいのと思います。それでも何とかピークは越えて緊急事態宣言も解除されて、ほっとしましたね。このまま、再感染の2波・3波が来ることなく落ち着くことを願うばかりです。街中は、飲食店や映画館やその他のお店もようやく開かれています。元の景気・活気になるまでにはまだまだかかるのでしょうか？それまで皆さんも浮かれることなく、あと少し頑張っていきましょうではありませんか！そして、先ずは子供たちが自由に学校に通学して、私たち大人も他府県にも往来できる日が早く来ることを願います。皆様ご用心して、お身体を壊さないようご自愛くださいませ。

健康コラム

PCR 検査はなぜ増えない??

「症状があるのになぜ、検査が受けられないのか」「海外のように検査数を増やせないのか」。新型コロナウイルスの感染の有無を調べる PCR 検査について、対象の拡大を求める声が出ています。専門家に聞いてみるとー。聖路加国際病院（東京）QI センター感染管理室マネジャーの坂本史衣さんは「感染の発生状況、医療体制などによって、誰を対象にどのように検査するかは異なります。国や地域の人口規模と件数だけを見て単純に比較できるものではない」と言います。その上で「軽症者や症状がない人など、幅広く検査することはデメリットの方が多い」とし、三つの問題点を挙げる。一つは検査の不確実性だ。感染していても「陰性」と判定される偽陰性、感染していないのに「陽性」となる偽陽性が一定数生じる。PCR 検査の場合、正しく陽性と判定できる割合（＝感度）は高く7割、専門家によっては3～5割とされます。偽陰性となった人は自由に動き回って感染を広げる恐れがある一方、偽陽性は入院となり行動が制限されてしまいます。二つ目は検査の手間と人員不足の問題。検査技師であれば誰でもできるわけではありません。トレーニングが必要で「いくら検査キットがあっても、技術者がいなければできない」と言います。最後に「軽症者が検査を求めて病院へ行くことには、基礎疾患がある人にうつすリスクがあり、非感染者の場合は逆にうつされる可能性もある」と指摘されます。早期発見、早期治療を求める声については「早く見つけても重症化を防ぐことはできず、対症療法以外にできることはない。ただ、症状が悪化した人には人工呼吸器の処置などを素早く進める必要があり、軽症の人で病床をふさぐのではなく、必要な人がきちんと検査を受け、入院できる病床を確保すべきだ」と話します。現在、国内で行われる PCR 検査の目的は（1）重症者の発見と救命（2）クラスター（感染者の集団）の発見と対応ーという2点。検査件数について韓国と比較されることも多いが「韓国ではメガクラスターといわれる大規模な集団感染が複数起きており、状況が違う」。一人一人が限られた医療資源を大切に使うことを考えてほしい」と話されています。

	月	火	水	木	金	土
午前	吉田	吉田	吉田	×	吉田	新庄
午後	吉田	吉田	×	×	吉田	新庄

午前診察 9:00～12:00 休診日：日曜・祭日

午後診察 4:30～6:30

第1・第3火曜は午前・午後とも新庄先生になります。

ご連絡

保険証提示のお願い

毎月1回は、保険証の提示をお願い致します。

